

【 住民と共に歩む地域づくり 】 -宮城県白石市斎川公民館-

キーポイント：若者を巻き込んだ住民（地域）主体の地域づくり

1. 事業の内容・工夫

(1) 実施主体

- ・斎川まちづくり協議会
- 【斎川公民館の指定管理を受託】

(2) 連携・協働団体

- ・白石市教育委員会生涯学習課

(3) 実施内容

- ・地域課題の情報共有（話し合い）
- ・地域住民への意向調査
- ・地域住民による将来像の検討
- ・地域若者会議の開催
- ・地域住民参画の事業計画

みんなで学び・考え、持続可能な地域を実現するための連続講座

きらり斎川笑アップ塾

【事例1】
SNS(LINE)の運用
(公式アカウント取得)
【工夫点】

- ★各種行事の案内を紙面とLINEの両方で発信し、参加の呼びかけ。**災害時の情報発信にも活用。**

【事例2】
若者会議
【工夫点】

- ★集える日時のリサーチ、年長者の入室禁止で話しやすい環境を整え、年代別①中学生～29歳 ②30歳～49歳で開催した。

【事例3】
LINE講習会
【工夫点】

- ★20歳代を講師に、企業の協力をもらい**高齢者との交流の場、若い世代が認めらる場**を設けた。

【事例4】
行事・会議・組織の棚卸し
【工夫点】

- ★次世代へ安心して引き継ぐことができるよう、団体の統合・行事の掛け合わせをした。

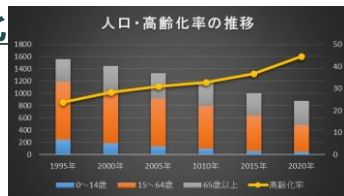
誰もが安心して暮らしやすい地域を目指す!!

2. 事業のきっかけ（取組の背景）

■地域の現状と課題

(1)人口減少・少子高齢化

- ・斎川地区の人口の推移は20年前と比較して、35.7%減少し、高齢化率は、13ポイント上昇。



(2)小・中学校の閉校と事業の反省

- ・学校の閉校を機に企画した「ころ柿作り体験教室」は大盛況。しかし、イベントにだけ注力しても地域の持続性は高まらず、地域の諸活動等の保存・維持、生活不安など**地域の行く末に大きな危機感を抱く住民が増加**した。そこで、連続講座「きらり斎川笑アップ塾」を開催し、皆で一緒に学び考え歩いていくことに決めた。

■地域住民のニーズ

(1)中学生以上全住民アンケートを実施

- ・多くの住民から「地域住民の抱える課題やニーズをしっかりと把握すべきだ！」と声が挙がり実施。

回収率：85.5%
(回収823／配布963)

アンケートの結果から・・・

- ・将来への不安が浮き彫りに！行事等の工夫・改善が必要だと判明。
- ・若者の声をもっと丁寧に聞く必要があると判明。 などなど・・・

3. 担当者の所感、参加者の声

■担当者の所感

- ・若者会議の参加者が、自主的に地域行事の手伝いをするようになり、一部の行事では、企画・準備・運営を担っている。また、全体として行事への参加者が増えたことは、以前より地域の人々の動きや交流が活性化してきたと実感している。

■参加者の声（若者の声・20歳代女性）

- ・「何かお手伝いすることがあればいつでも言ってください」
- ・「斎川・白石を更に良くしたい」

4. 今後の展開

- ・公民館として地域内の課題やニーズを更に深掘りし、今後も**学びの場・小さな挑戦の場**を設け、住民とともに**地域の課題を解決しながら、住民の自己肯定感を高めたい。**

第72回優良公民館表彰 審査委員評価コメント

※審査員評価コメントは、webサイトに紹介されている資料だけでなく、各都道府県等から文部科学省に提出されたすべての資料に基づきコメントされています。

- 公式LINEアカウントによる広報の強化を行うとともに、企業や若者の協力で高齢者向けにLINE講座を実施して効果を高めている。また、自治会の協力で全住民アンケートを実施し、データ分析もよくされていて、さらに社教委員会議も充実している
- 中学生以上の全住民にアンケートをとり、地域課題やニーズを把握するとともに、地域住民参加型の事業企画検討会を開催し、特色のある事業を実施
- 白石市と指定管理者との間で毎月報告書を提出。まちづくり協議会との意見交換を定期的に行っている。SNSを活用した若者への広報の実施
- 中学生以上の住民に対するアンケート結果の分析を踏まえた地域課題解決のための事業展開の工夫が素晴らしい
- 公民館が地域住民を巻き込みながら持続可能な地域の創造に向け各種事業を行っており、地域住民参加型の事業企画検討会など、地域コミュニティの積極的な運営参画が見られる

